

【講演記録/明治、大正、昭和に上海にあった日本の大学「東亜同文書院」高松講演・展示会】

愛知大学記念館ドローン映像と「東亜同文書院から愛知大学」紹介

愛知大学豊橋研究支援課長 田辺 勝巳

(2019年10月13日、サンポートホール高松)

1. はじめに

愛知大学豊橋研究支援課の田辺でございます。東亜同文書院大学記念センターの事務責任者をしております。皆様、台風の後でございますが、お越しいただきましてありがとうございます。

2. 愛知大学の創立

さて、令和元年になりましたが、愛知大学はこの11月15日で74年目を迎えます。愛知大学は戦前、上海にありました東亜同文書院を引き継ぎ、教職員の有志が集って作ったユニークな学校です。東亜同文書院大学の最後の学長本間喜一先生が、敗戦による東亜同文書院の廃校により日本に帰国後、東京、大阪など6大都市以外の地方で、日本への引き揚げ者を収容できる大学を作れないかと検討され、豊橋の地に新たな大学を創立しました。豊橋のほか、久留米、別府、半田、鎌倉が候補地であったようです。陸軍の施設であり空爆にあつておらず利用ができること、豊橋市長による強い援助のもと寄付金があったこともポイントのようです。建学の精神に「世界文化と平和への貢献」とあり、まさに戦後に創立したからでしょう。「国際的教養と視野を持った人材の育成」とは上海にあった東亜同文書院の繋ぎの学校という意識が強かったのでしょうか。

「地域への貢献」も掲げられました。そし

て、愛知大学には東亜同文書院の関係者の学籍簿、成績簿を保管しています。

3. 展示会・講演会「東亜同文書院大学から愛知大学へ」

東亜同文書院大学記念センターは、展示会・講演会「東亜同文書院大学から愛知大学へ」を毎年、全国各地で開催しております。水色のパンフレット裏面に、日本地図で紹介しておりますが2006年から継続しております今回が19回目となります。四国に渡ったのは初めてでございます。講演会は半日でございますが、私ども研究しておりますスタッフ共々できる限りのお話をさせていただきます。



2006年	横浜	2011年	富山
2007年	東京	2012年	沖縄
2008年	弘前	2013年	長崎
2008年	福岡	2014年	岐阜
2009年	シカゴ	2014年	広島
2009年	神戸	2015年	松本
2010年	京都	2016年	名古屋
2010年	米沢	2017年	浜松
2010年	名古屋	2018年	岡崎

4. 愛知大学記念館

まず、愛知大学記念館についてお話いたします。本日展示している展示物は大学記念館から持ってまいりました。大学記念館は学生への教育施設としても活用しており、一般にも公開しています。建物は築 111 年を迎えております。1908 (明治 41) 年に陸軍第 15 師団司令部として建築され、その当時のまま同じ場所に残っています。その後、陸軍教導学校の本部、陸軍予備士官学校の本部、愛知大学本館と変遷し、1998 (平成 10) 年に文化庁の登録有形文化財 (登録番号: 第 23-0009 号) に指定されました。

5. ドローン映像

ここで、新しくドローン撮影をしましたのでご覧ください。初公開です。これは昭和



天皇裕仁様が皇太子のときに植えられた松です。その向かいが昭和皇后良子様のお父



様、久邇宮親王のお手植えの松です。久邇宮親王はかつて陸軍第 15 師団長をなされていたものですから、天皇家ゆかりのものが本学にはいくつもあります。これは本学の建物に関する歴史的資料をマップにまとめた看板です。ドローンは今、かつての愛知大学本館、現在の大学記念館の中に入っています。ここは愛知大学創設者で第 2 代、4 代学長の本間喜一先生の展示室です。ここは正面の階段をのぼった 2 階の階段ホールで、タペストリーが飾ってあります。本学卒業生の平松画伯が作られた緞帳の一部で、中日劇場で長年利用されたものです。11 月



14 日から平松画伯特別展覧会を開催致しますのでよろしかったら、豊橋にお越しただければと思います。ここが学長室で、かつての陸軍師団長室です。ここにある右手の額「一道同風」は、東亜同文書院創立 20 周年記念に黎元洪総督、今でいえば習近平第 5 代最高指導者ですが、書院に贈られた書です。書院創立が 1901 年ですので創立 20



周年というと1921年、約100年前のもので、ドローンは学長室の窓を出て大学記念館の全景を映しています。

6. 『大学時報』への掲載

大学博物館が全国的に注目されるようになってまいりまして、『大学時報』2018年9月号に「自校史と大学博物館」が特集されました。資料裏面を見ていただきますと日本私立大学連盟と記載がありますが、主たる大学の多くが所属しています。私大連盟以外にももう一つ、日本私立大学協会があります。愛知大学は私大連盟に加盟しており、『大学時報』9月号の特集への掲載大学6大学のなかにノミネートされ、「大学史を基軸に研究、教育と公開事業一日中に懸けた東亜同文書院から愛知大学へ」を題目に紹

介をしました。

研究をしているのは愛知大学東亜同文書院大学記念センターで、文部省から2006年、2012年と2回にわたり10年間の補助金をいただき、今も施設運営費の補助をうけ、研究と公開事業を進めております。スタッフも含めて学生への教育も行っており、更に愛知大学記念館にて展示公開をしています。

教育面では、1年生を対象に大学記念館にて1コマの講義をしています。それ以外にも大学史教育を単位科目として15回講義をおこなっています。今日、講演をいたします石田非常勤講師が豊橋校舎、名古屋校舎にて授業をうけています。愛知大学は創立73年になるのですが、ルーツ校の東亜同文書院は45年で閉校しました。戦前にあった学校ですので、その関係者に纏わる様々な史資料がございます。展示資料を直接見るにより、その背景が理解できる授業を行っております。授業の補足資料としてお手元の水色パンフレットを利用しております。また、皆様にお渡ししましたピンク色のパンフレットもあります。東亜同



文書院ができた背景、その頃がどういう世界情勢があったかという歴史背景を、本日講演いたします本学名誉教授の藤田先生が書いてくれました。1840年代から愛知大学ができる1946年以降までの歴史観がわかるものに仕上がっております。

7. 霞山会、愛知大学共催のアジア理解講座シンポジウム

また、霞山会、愛知大学共催のアジア理解講座シンポジウムを6月8日に開催いたしました。ここにあります霞山会という「霞山」は、東亜同文会の会長であり東亜同文書院を創った近衛篤磨公の雅号です。シンポジウムで挨拶をされました霞山会理事長の池田維様は、外務省アジア局長、官房長、オランダ特命全権大使、ブラジル特命全権大使、交流協会台北事務所代表を歴任されており、平成天皇が中国に初めて訪問された時は外務省アジア局長として対応をなされ、天皇がオランダを訪問なされたときにもオランダ大使としてお仕事をなされた方です。時代が「令和」にかわった今年、NHKほかテレビ特集番組に、平成天皇の足跡に纏わる番組が放映され、何度も出演なされました。

本学は、霞山会とのつながりを深くしつつ、東亜同文会、東亜同文書院を大切に引き継いでおります。

8. まとめ

東亜同文書院大学記念センターは、愛知大学の大学史に係る広がりや繋がりを公開するために様々な事業展開をしている、ということをご理解いただけましたら幸いです。

愛知大学記念館への来館者は海外からの方もいらっしゃいますし、大学関係者の方々も研究目的としていらっしゃいます。近隣の方々、学生を含めて毎年5千名を数えます。JRのさわやかウォーキングの立ち寄りポイントに選ばれることや、先ほどもお話したように平松礼二特別展覧会等々も開催しています。みなさまのご来館をお待ちしております。ご清聴、ありがとうございました。

*写真は、株式会社ROBOZ 石田氏によるドローン撮影の一部を引用した。